

New テクノマート

知財・人財宝[®]



戦略情報誌

85th
ANNIVERSARY
2014



Fujikin Carp Group

Top Interview

人財宝

超知財

特別企画

日本の「モノづくり」を進化させる!

地方独立行政法人
総合府立産業技術
研究所 理事長

代表執行役社長 兼 COO

古寺 雅晴 先生
野島 新也



北法相宗 清水寺貫主 森 清範 猥下ご揮毫

2014 JUN. Vol.12

Renewal First Issue

New テクノマート SO(創)は新しく
超知財・人財宝 戰略情報誌として進化し、
生まれ変わりました。

創ろう! ニッポン

日本はまた東から昇り、再び列島を照らす。

Fujikin Carp Group



いま、企業が注目する! 国際教養大学 24時間365日開館の図書館
日本建築家協会賞他受賞

2015年版大学ランキング 朝日新聞出版「教育分野」(学長からの評価)120人1位

愛読者様 交流俱楽部

K大学様 S先生からのご反響

人事の採用活動でS先生とご面談しました際に、S〇(創)についてご紹介差し上げました。S先生からは「さすが、フジキンさんですね。国の事業を自主的に引き継がれ自費でS〇(創)を創られたことに、感銘いたしました。」とありがたいお言葉を頂きました。

→ありがとうございます。前号から知財と人財の二つを柱とした誌面へとりユーチャル致しました。より層、皆様方のお役に立つような誌面作りを心がけて参ります。

O高等専門学校様 Y先生からのご反響

いつもS〇(創)をお届けいただき、ありがとうございます。各界のご意見、情報、更には知財情報も掲載されており、興味深く拝見させていただいております。また、今回は、当校がフジキン様ブースから「THE高専@SEMICON Japan」に参加させていただいた記事も掲載していただき本当にありがとうございました。学生の励みにもなり、学校としても大変喜ばしいことです。今後も今回の研究を更に進化させて、次回も出展させて頂けるよう頑張っていきたいと思います。

S協会様 M様からのご反響

当社も空調関連の制御装置のオーダーメイド作成という分野において、技術力に日々磨きをかけ取り組んできています。特許情報を、世の中の人に知って頂くことは必要なことだと感じます。今後も継続して読ませていただきます。

いつもS〇(創)をお届けいただき、ありがとうございます。各界のご意見、情報、更には知財情報も掲載されており、興味深く拝見させていただいておりまます。また、今回は、当校がフジキン様ブースから「THE高専@SEMICON Japan」に参加させていただいた記事も掲載していただき本当にありがとうございました。学生の励みにもなり、学校としても大変喜ばしいことです。今後も今回の研究を更に進化させて、次回も出展させて頂けるよう頑張っていきたいと思います。

アンケートはがき反響

「知財情報」のページが楽しい。内容が濃い。

(静岡県在住 O様)

A幼稚園様 S園長からのご反響

S〇(創)の人財宝に関する記事を拝

読致しました。

25年度は例年ない程の人材難で、隣の同業種さんも多数嘆いておられました。他の学校法人様の取り組みの様子や、就職率のデータ等の情報などから「でも多くの解決策を見つけていきたいです。

→ありがとうございます。改めて情報発信を継続することの必要性を考えさせられました。直結するかはわかりませんが、少しでもS〇(創)が皆様のお役に立つよう一層精進して参ります。

K協会様 S先生からのご反響

フジキンさんはカレンダーをはじめ、おもしろい取り組みをされていると思いま

す。特許情報を、世の中の人に知って頂くことは必要なことだと感じます。今後も継続して読ませていただきます。

S社様 M様からのご反響

著者は本誌のシリーズ「夢」にご登場いただいた上原春男様です。上原春男様は1940年長崎県対馬市生まれ。山口大学文理学部(物理学専攻)を卒業し、1963年に九州大学助手を皮切りに原子力工学、佐賀大学で海洋熱エネルギー工学の研究開発に従事しました。2002年佐賀大学学長に就任。2005年佐賀大学退任。2005年NPO法人海洋温度差発電推進機構理事長に就任。2006年株式会社GECを設立し現在に至る。

海洋温度差発電でウエハライクルと呼ばれる高効率システムの開発者です。本書の出だしは衝撃的な3.11福島第一原発事故当時の体験から始まります。本書の内容は非常に多岐に渡っていますが、あえて「言まとめて言うと、「会社の栄枯盛衰もダーウィンの進化論のことく、強い会社が生き残るのはなく、環境に適応する力の強い会社が生き残る。」これを支えるのは、個人の創造力にはかならない。ある意味、無理難題に直面した時にこそ創造力の発揮のしどころと言えます。会社の経営者、組織の経営者、部下を持つ者、上司を持つ者全てに共通する、忘れてはならないもの、忘れたなら損するものが、決して押し付けがましくなく書かれています。さすがは先生と呼ばれる教育者の面目躍如と

ありました。学生の励みになりました。その後も毎回の研究を更に進化させて、次回も出展させて頂けるよう頑張っていきたいと思います。

創造こそあなたと会社を成長させる



BOOK

自分と闘って負けない心



著者は言わざと知れた将棋界の帝王です。1970年埼玉県生まれ。小学6年生で二上九段に師事し、プロ棋士育成の奨励会に入会。中学3年で四段。19歳で初タイトル竜王位を獲得。94年に王将位を獲得して、名人、竜王、特級、王位、王座、棋王の七大タイトルを獲得。将棋界初の七冠を達成した。タイトル戦登場114回、タイトル戦で6つ

の永世称号を保持している。

大局観はいわば「木を見て森を見ず」の逆のことである。棋将の強さは、何手先を読むかのように思われるがちだが、著者は、難しい局面で無駄な「読み」を行わず、正確性の高い判断が早くできる「大局観」が重要と言いつています。大局観は年齢(経験)を積むほど育つてゆくものです。また「直感」と「閃き」の差についても語られています。日々努力して研鑽を積み重ねた者の直感は、素晴らしいものですが、単なる閃きには大きなリスクを伴うことがあります。本書のなかで「リスクをおかせ」「挑戦する勇気」「逆境を楽しめ」「繰り返すこと」を大切にすることは、何もプロ棋士としてだけではなく、万時において、ことを大きく成就しようとする者にとっては重要なことです。闘い、勝負のプロの世界に限らず、日々、人びとが遭遇する様々な場面で、「つづき」を小さな勝負としてみた場合に、全ての人に共通するキーワードと言えるでしょう。

◆第一章 今こそ日本人は創造せよ ◆第二章 創造せよ、しかば、望みはかなえられる ◆第三章 創造性を高めるために今からすべきこと ◆第四章 一兎も三兎も追う者だけが生き残る ◆第五章 変わる人と変われない人 ◆第六章 創造の極意「分離再結合の原理」

◆第一章 大局観 ◆第二章 練習と集中力 ◆第三章 負けること ◆第四章 一兎も運・不運の捉え方 ◆第五章 理論セオリー・感情

著者 羽生善治

著者 上原春男様

東峰書房 1512円(税込)

65 超知財・人財宝戦略情報誌・Newテクノマート S〇(創) vol.12 2014.6